

教師道場を受講して

平成26年度の東京教師道場には、編集部から坂井田(都東村山高)、大平(都秋留台高)の2名が参加している。2名とも同じ班に所属しており、竹村精治教授(前都数研会長)の下、日々精進している所存である。

我々が属する高校3班には、リーダー1名と7名の部員があり、それぞれの部員が1回ずつ研究授業を行った。研究協議では、以下に示す「授業力の6要素」に基づいて、授業改善について意見交換を行っている。

- ①教材解釈・教材開発
- ②指導技術(授業展開)
- ③「指導と評価の計画」の作成・改善
- ④統率力
- ⑤使命感・熱意・感性
- ⑥児童・生徒理解

これら6要素に重点を置きつつ、高校3班では前半に「生徒の興味・関心を引き出す授業の工夫」、後半に「主体的な思考を促す指導の工夫」というテーマでお互いの授業研究を行っている。

部員からもたらされる意見、教授やリーダーからの指導助言は、どれも自身の授業力を向上させるための貴重なものであった。授業をするだけでなく、同じ志を持った部員の授業を観察し、考察することも、自身の授業を改善するためのよいきっかけとなった。

特に、学習指導案の作成にあたっては年次研修等で行う研究授業で作成していたが、正直なところ細かい形式や表現等にはあまり拘ってはいない部分があった。しかし、今年度の教師道場を通して今まで疎かにしていた箇所・疑問点を明確にすることができた。

また、7月と8月には夏季集中協議が行われ、異なる教科あるいは校種の先生方と意見を交換した。異校種の先生方との協議は、小中学校の算数・数学から高校数学までの系統性と、「生徒がどのように、何を学んできたのか」を考えるきっかけとして、非常に印象に残っている。小学校算数の授業を見学することができたのも、貴重な体験であった。新指導要領で追加された「データの分析」に関して、小学校では「資料の散らばり」として扱っており、系統的な学習をしていることが伺えた。来年度には中学校の授業見学に行く予定であるので、これも今から楽しみである。

我々が小中学校の授業を見に赴くということは、小学校や中学校の先生方も、高校までやってくるということである。僥越ながら、筆者である坂井田がその授業を担当することになった。厳しいご指摘を多数いただいたが、それらを糧に、次年度も研鑽を積んでいきたい。

文責 坂井田博史(都東村山高)
大平剛弘(都秋留台高)

編集部より

編集部長 萩原 聡(都昭和高校・校長)

1 研究集録 51 号について

研究集録第 51 号特別企画号を無事に発行しました。3月13日(金)に都立川高で発送作業を行いました。会員の皆様には3月中にはお手元に届くと思います。

もし、会員でお手元に届いていないときには、編集部(肥田・立川高 hensyu-b@tosuuken.jp)までお問い合わせください。

2 編集部主催の勉強会について

2月14日(土)13時より、都立川高の視聴覚教室で実施し、参加者30名でした。

研究発表者は、次の3名でした。

- ①発達段階に応じた数学教育～中等教育学校の経験を通して～
林恵美子(都三鷹高)
- ②東村山西高校における習熟度別授業での取り組み
川井田友紀(都東村山西高)
- ③生徒の興味・関心をよぶような教材作り
平澤陽子(都日本橋高)

発表後の講師は、教育実践研究オフィスFの代表 鍋島史一先生でした。「着実に理解を積み上げるための授業設計」というテーマで次の4点についてお話を聞くことができました。

- ①レディネスを整える
- ②授業時間をめいっぱい使って活動させる
- ③わからないことには、できるようにならない
- ④学習方策や学習活動そのものを評価する観点も整備する(評価あってこそその育成)

勉強会当日の資料や発表内容について、後日、冊子を作成することを計画しています。

事務局より

宇佐美俊哉(都保谷高)

(1) H26年度の会員について(3月1日現在)

正会員(個人)99名
正会員(学校)3校27名
賛助会員(個人)19名
賛助会員(団体)1団体
次年度も引き続き、お願いいたします。

(2) H27年度会費納入のお知らせ

申込方法

*正会員・賛助会員(事前に承認を得ている方)は、別紙の申込書(都数研WEBに掲載)でお申込みいただけます。

*賛助会員の新規入会の場合は、事務局へご連絡ください。

振込先

銀行 三菱東京UFJ銀行 渋谷支店
(店番135 普通口座0128396)
名義 トキョウトウツカッポウ シカクキョウケクキョウカイ
東京都高等学校 数学教育研究会
ジメキョクチャウ シンダワル
事務局長 吉田亘